名　称		令和６年度　第２回ほどがや市民活動センター評議会　議事録
日　時		令和７年３月 12 日(水)　14:00～16:00
場　所		ほどがや市民活動センター(アワーズ)　　ミーティングスペース
出席者	評議会委員	有元　典文　委員　横浜国立大学教育学部教授 小倉　敬子　委員　(公財)かわさき市民活動センター理事 近藤　博昭　委員　横浜商工会議所西部支部　支部委員 竹迫　和代　委員　参画はぐくみ工房代表兼ファシリテーター 藤枝　香織　委員　(一社)ソーシャルコーディネートかながわ理事・事務局長 堀　功生　　委員　保土ケ谷区連合町内会長連絡会副会長
	保土ケ谷区役所	地域振興課　地域振興課長　　川瀬　倫子 〃　　生涯学習支援係長　李　悠 〃　　生涯学習支援係　　鈴木　佑弥 〃　　生涯学習支援係　　和田　喜代美
	協働運営会議	代表　　清水　蓬山
	管理運営業務受託者 特定非営利活動法人 横浜市民アクト	理事長　　福島　伸枝 ほどがや市民活動センター　センター長　　北川　有紀 〃　　職員　　近岡　友仁 〃　　職員　　宮原　美佐 〃　　職員　　小林　康夫 〃　　職員　　姉川　圭一

議題	１　令和６年度　ほどがや市民活動センター事業報告 ２　質疑応答・意見交換
資料	１　令和６年度　ほどがや市民活動センター　評議会委員・関係者名簿 ２　令和６年度事業報告及び中間報告 ほどがや市民活動センター　令和６年度事業一覧 ほどがや市民活動センター　令和６年度事業報告 利用者アンケート結果報告 施設利用状況 14 期 ほどがや・街の学習応援隊資料 （当日配布資料） ほどがや市民活動センター情報紙 OURS

＊川瀬地域振興課長の挨拶に続き、評議会会則第８条に基づき、委員 6 名全員の出席を確認し、本評議会の成立が確認された。
＊令和 6 年度第 2 回評議会議事録を、ほどがや市民活動センターホームページに掲載する旨を出席委員全員の了承を得た。

議題１：令和６年度　ほどがや市民活動センター事業報告
令和６年度　ほどがや市民活動センター事業報告をセンター長から行なった。 **■　事業（イベント）について** 〈質問〉　報告にあるように、新たに活動したい人が増えていると認識している。活動経験が無くても既存組織とは別に、自分たちで新たな活動を生み出す人が増えている。既存の活動分析だけでなく、新たな分野でもアワーズの役割が広がるのではないか。新たな活動の把握や情報収集はどの程度しているか。 〈回答〉　アワーズのような施設に相談に来なくても、インターネットで情報収集し、ボランティアマッチングサイトで人を募集して活動をはじめる人が保土ケ谷にも出てきている。情報紙の取材をきっかけにして、新しい活動や活動までに至らない個人の動きを情報収集をしている。アワーズの SNS は、施設を普段使っていない若い人が見ていて、ダイレクトメッセージで相談がくることもある。 〈質問〉　コーディネーターが退くと活動が停滞するのが課題という。コーディネーターとはどういう方なのか？ 〈回答〉　外部から招いてはいない。アワーズの事業は担当職員がコーディネーターとなる。コーディネーターの明確な定義はなく、役職名というよりは、人をつなげたり場づくりをする自覚をもって地域づくりをしている人。 〈質問〉　コーディネーターのキーマンを発掘、開拓することが今後の課題とある。集まった人からコーディネーターが生まれるように働きかけるのか。 〈回答〉　組織の中で業務としてコーディネーターを担っている人のほか、例えば生徒と地域をつなぐ学校の先生も潜在的なコーディネーターと捉えている。今年はコーディネーターの異動があったため、停滞してしまったがまずはコーディネーター同士の情報交換で関係づくりを行い、その先に連携や活動につなげられればと考えている。 （意見）人事異動はよくあること。組織的なつながりを持つべき。 〈質問〉　中間支援組織として登録団体向けの人材育成は何かやっているか。 〈回答〉　団体支援としては、講座をやってほしいというニーズがない。また、団体によって課題が様々なため、団体個別の相談対応を中心に行っている。協働運営会議の茶話会のような場を通して互いに話せる関係を作り一緒に何かをやることで、団体の力になる気づきや学びを得てもらえればと考えている。 〈質問〉　それぞれの自主事業の目的は、団体を自立育成するためか？サンタプロジ

ェクトの一部を自立させるといった話も記載がない。
〈回答〉　必ずしも全ての活動のゴールが団体化自立化ではなく、人と人の関係構築を優先して活動モデルを考えている。例えば定例おそうじでは団体化はせずいろんな人が毎回変わりながらも活動が維持されている。参加する人の意思を尊重したい。
（意見）アワーズが主催する事業でリーダーを担うことを嫌がられるのは当たり前。自立させていくのか、自分たちで継続させていくのか事業の目的をはっきりした方が良い。

〈質問〉　オンラインはじめ隊に関してもグループ化は出来ないということか。
〈回答〉　今年最後の事業開催が評議会後にある。いままでグループを作るとか何か役割をもつとか考えもしなかった人が、これまでに作った関係性をもとに話し合いに参加すると言っている。話合いの結論を尊重したい。

〈質問〉　市民から事業企画提案を出させて、採用した事業に職員を付けて伴走支援するという事業を検討する考えはないか？伴走支援した後は新しい団体ができる。
〈区回答〉　地域振興課事業で、はぐくみ塾がそれにあたる。講座企画運営の練習を行った後、立ち上がった団体は区から補助金を３年間受給できる。

〈質問〉　事業の方向性がグループを作る 1 つのツールとして、団体として活動継続してゆく方向性をつくるようになっているか？その際にアワーズはどう関わるのか？
〈区回答〉　3 年間の補助を終えて自立してもらいたいが、グループの継続自体が 1 年で終わったり事情が様々あって続かない事がある。アワーズは今のところ会場提供のみ。
（意見）地域の活動の核となるよう支援すべき。

〈質問〉　ホームページで見ると保土ケ谷区は区制 100 周年で新しい取り組みをしていて、活動団体の育成のため補助金を出すという。これに関してもアワーズはどんな位置づけで、どういう役割を果たすのか？アワーズが地域振興課や区役所のプログラムとどう連携していて人材育成がされるのかといった絵が見えない。
〈区回答〉　100 周年事業についてアワーズとの関係も委員指摘の通りなので、今後話し合っていきたい。

（意見）連携は事業の企画段階から話し合いを進めるのが望ましい。今後は事業当初から検討してほしい。
（意見）アワーズは十分やっているのではないか。うまくいっているか、いないかというのはフィクション。心理学はここ 15 年、人の問題を見つけて治すメタファーから人のいいところを認めて伸ばすように変わってきた。市民活動支援も、課題を見つけて解決するという発想よりも、人の良さや特徴を見つけて伸ばす市民活動センターで良いと思う。いいところを皆で言いあいたいと思う。

（意見）会社だといつまでにいくらでやらなければいけないとなるが、市民活動は自分たちで時期が設定できる。続けるのも休むのもできる。活動はやめずに休むという考え方も大事と思う。小学５年生の授業支援を通して教育現場の変化を感じた。少しずつ市民活動も進化するのだろうと思う。

（意見）オンライン活動はじめ隊はもう少し続けてほしい。販売代理店でスマートフォンの機種交換をしても、データ移行は自分でやるか全て有料。まだまだこういう勉強会の価値はあると思う。ICT 関連企業の OB を活用したオンライン支援団体を立ち上げるのも良いと思う。オンライン活動はじめ隊の活動は大変重宝される。わかる人が１人いれば行うことができるし、他にも教えられる団体がいると思う。職員が付くのではなく、地域人材を巻き込みながら進めていけるとよい。
また、多くの人に伝える、知ってもらう広報をしてほしい。

■　事業（通常業務）について

〈質問〉　アワーズは若者と市民活動の接点を主旨にした事業を様々行っている。普段利用者として若者はどのくらい利用しているのか？
〈回答〉　年齢別の数値記録はしていない。例えば定例おそうじの参加者は若い人が多いが、事業人数だけに反映し施設利用人数には入らない。また活動当初から活動場所を自分たちで作り人を集める形もみられ、公共施設ではないところで活動が行われてゆく。今までのようなフリースペースを使って活動を始めてゆく、といった活動への入り方とは少し違う。こんな場合今後どう接近してゆくかは検討したい。

〈質問〉　街の学習応援隊について。学習会の状況、登録人数の減少など、現状をおしえてほしい。
〈回答〉　事業の問題点を区役所と話しあった。この事業はボランティア活動者の為の事業であり、そのための登録条件を定めた。現在 20 プログラムで 18 人の登録者数。登録しなくても既に自分の活動が出来ていて、地域の人とつながりもあり、そこから依頼も受けていると理解する。自分の活動内容に不安な人が、自分で企画を展開し広報も出来るようになって地域に巣立ってもらえるよう、私たちがお手伝い出来たら。学習会はそのための補助事業と考えている。

（意見）活動を地域でやりたい、何か役に立ちたいけれどどこでやったらいいか分からない人は意外といる。高齢者施設のお楽しみ会や老人ホームでボランティアをやっている人など。待ちの姿勢ではなく、ほかの施設や職員に掛け合い、情報を取得・交換していくことが大切。具体的には、福祉施設のコーディネーターと知り合って情報交換する場をつくり、学習応援隊にスカウトする、アワーズが区内施設向けに登録者の活動を紹介する「お披露目会」を実施するなど。普段の活動時には謝金をとっていても、アワーズ事業で紹介するときはボランティア活動するという、地域貢献活動も登録者に入れると良いのではないか。

（意見）通常業務は丁寧にやっている。情報紙アワーズも格段に中身がよくなった。市民活動支援施設はやはり機能が大事だと思っている。情報提供や相談コーディネートは主に施設内で行うけれど、出かけた先でもスタッフの皆さん自身が市民活動支援センターだという意識で動く。そうしていることで若い人たちとの接点も含めて、人とのつながりは広がっていると感じる。

（意見）まだ市民活動に参加していない人が、あれは楽しそう、あれは意義があると人に思わせることが大事。これを学習動機づけと言う。無理やりやれと言っても人は動かないので、面白さ楽しさ気安さ、をうまく表現できるといいと思う。

（意見）協働運営会議の茶話会を毎月やる予定と聞いたが、市民活動していない人も集まれる交流の場をつくると良い。アワーズへ集まる人の層が増えると思う。

（意見）自治会など地域の広報は、掲示板を見ている人が多い。回覧はハンコだけ押してすぐ回してしまいあまり見ていない。情報発信はぜひ紙の媒体をなくさないでほしい。今後も期待している。

（意見）施設間連携、ネットワークのプログラムはつくるのが難しいため、目的を整理する必要がある。アワーズはターゲットの幅が広いが、他施設は目的の対象が明確。連携の為の企画になりがちなので、よく考えてネットワークづくりに努めていただければ。

（意見）職員の皆さんが他都市の施設や現場を見に行き、新しい知見を積極的に取り入れられるような研修があっていいと思う。区役所との有益な対話の機会が図られると、よりよくなっていくと思う。

（意見）
・協働運営会議が元気になったことが非常に嬉しい。地域に根差した良いネットワーク環境を作ってくれれば。
・アワーズは行政の委託事業で行政の意向に基づいて行うことが基本。自分たちだけでやっている場ではないことが行政と一緒にやっていく難しさであり考えなければいけないこと。両者の着地点を見極めてほしい。
・若い世代や新しい現役世代に特化している事業が多い。地域の既存団体へのケアもがんばってほしい。高齢者、乳幼児のいる若い母親世代など多様な世代に活動者はいるので、アワーズが様々な活動をつなげていけるよう、これからも情報発信していただけたらと思う。行政も出し惜しみせず、情報共有しながらより良い方向に向かってください。

以上